



平成 29 年 2 月 10 日

各 位

会 社 名 サ イ ジ ニ ア 株 式 会 社
代表者名 代 表 取 締 役 CEO 吉井 伸一郎
(コード番号：6031)

問 合 せ 先 取締役執行役員 CFO 横溝 大介
兼 経 営 管 理 部 長
(TEL. 050-5840-3147)

減損損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日平成 29 年 2 月 10 日開催の取締役会において、特別損失として固定資産に係る減損損失を計上すること、及び平成 28 年 8 月 12 日に公表いたしました平成 29 年 6 月期（平成 28 年 7 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日）の業績予想を当社における最近の業績の動向等を踏まえて修正することを、決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 固定資産に係る減損損失の計上について

当社の主要な資産であるソフトウェアにおいて、パーソナライズ・アドサービスの採算性を中心に償却期間と販売計画について精査した結果、市場及び事業環境の変化に伴い、当初計画で想定していた収益と今後発生することが見込まれる収益に差異が生じたことから、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき将来の回収可能性を検討した結果、有形固定資産及び無形固定資産に係る減損損失（90,210 千円）を特別損失として、計上いたしました。

2. 業績予想の修正について

(1) 平成 29 年 6 月期通期の業績予想数値の修正（平成 28 年 7 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 780	百万円 △50	百万円 △50	百万円 △51	円 銭 △24.92
今回修正予想（B）	580	△230	△230	△320	△155.93
増減額（B－A）	△200	△180	△180	△269	△131.01
増減率（％）	△25.6	—	—	—	—
（参考）前期実績 （平成 28 年 6 月期）	766	△134	△136	△149	△72.93

(2) 修正の理由

売上高については、パーソナライズ・アドサービスにおいて、一部の大型案件の取引額を増加させ、その継続受注が堅調に推移いたしました。当期の注力分野である「デクワス.RECO」や「デクワス.POD」等の利益率の高いサービスの新規案件の受注獲得については、(i)営業人員の採用を中心とした営業体制の強化に時間を要したため、当初計画に従って積極的な営業活動を展開することができなかったことに加え、(ii)他社のレコメンデーションサービスとの競争に加え、マーケティングオートメーションツール（マーケティング業務を簡素化・自動化するツール）のようにレコメンデーションサービスを含んだ広範な機能を有するマーケティングサービスとの競争も激化したことを主な理由として当初計画を下回る見込みとなりました。

コストについては、人工知能を活用した新規サービスへ積極的な研究開発費用を投下したことから、全社的なコスト抑制に努めたものの、売上高の減少による売上総利益の減少をまかないきれませんでした。

また、有形固定資産及び無形固定資産に係る減損損失を計上いたしました。詳細については、上記「1. 固定資産に係る減損損失の計上について」をご覧ください。

(3) 今後の取組

今後につきましては、「デクワス.RECO」や「デクワス.POD」等の当社のプロダクトを販売することによって収益を獲得するプロダクトビジネスを当面の間は維持しつつも、当社が研究を行ってきた人工知能技術を軸にして、顧客の課題解決力を高めることによって収益を獲得するソリューションビジネスへの転換を漸次行い、営業黒字化を目指してまいります。

3. 業績への影響

上記の特別損失については、本日公表の「平成 29 年 6 月期決算短信〔日本基準〕（非連結）」に反映しております。

4. 役員報酬について

代表取締役をはじめとする常勤取締役の役員報酬については、その経営責任を明確にするとともに、業績向上を期すべく、前事業年度から減額しておりますが、月次営業黒字化の目途がつくまで、減額を継続いたします。

※ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、当社が現在入手している情報を合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上